

共催：大阪高生研「シリーズ・部活動を考える2」
&新新新・学校保護者関係研究会「第10回半公開学習会」

部活動と高校生の自治を考える

- ①高校の部活って？ そもそも教師の本務？～成長する、救われている生徒が確かにいるけど……
- ②でも、近隣住民からの苦情で、のびのびとはできない事態も～じゃあ生徒たちはどうする？

日時：2018（平成30）年1月7日（日）午後1時30分～5時

**場所：大阪大学中之島センター（京阪電車中之島駅歩5分）
302会議室（※注意、大阪大学の吹田キャンパスではありません）**

会費：無料

話題提供：神谷拓さん（宮城教育大准教授）＊体育科教育学
小野田正利さん（大阪大学大学院教授）＊教育制度学

「大阪高生研」は、7月8日に「シリーズ・部活動を考える」を開催し、神谷さん、小野田をゲストに「部活動はそもそも教師の本務なのか」「いま、どんな問題が起こっているのか」を共有しました。他方で小野田が主催する「新新新・学校保護者関係研究会」（科研費による研究組織）は、8月6日に、長沼豊さん（学習院大学教授）が中心となった「部活動のあり方を考え語り合う研究集会 イン 大阪」（＝第9回半公開学習会）を開催しました。

今回は双方の企画の Part 2 として、この2つの団体の共催企画です。

まず『生徒が自分たちで強くなる部活動指導』ほかの著書がある神谷さんに、「生徒の自治による新しい部活づくり」を提唱いただき、教育的意義とはどんなものがあるのか、教師の「働き方」も踏まえたところで、教師は、保護者は、地域はどうかかわることができるのか等、現場や研究者を交えて議論します。

次に最近著『「迷惑施設」としての学校』を出版した小野田が、部活動をめぐる学校近隣からの苦情・クレームの中で、活動自粛を余儀なくされている状況を生徒自らが打開し始めた「鼎談深志」（長野県松本深志高校）の活動の意味を紹介します。

神谷 拓かみや たく 1975年、茨城県出身。

中京大学体育学部を卒業後、和歌山大学大学院教育学研究科に進学。その後、筑波大学大学院人間総合科学研究科修了。博士（教育学）。日本体育学会体罰・暴力根絶特別委員会委員。現在、宮城教育大学准教授。専門はスポーツ教育学、体育科教育学。著書に、『生徒が自分たちで強くなる部活動指導』『運動部活動の教育学入門—歴史とのダイアログ』（大修館書店）などがある。

**問い合わせ・申し込みは、電子メールで下記のアドレスまで
（先着50名）→ taikanokaisin@kd6.so-net.ne.jp**

主催責任者：佐藤 功（大阪高生研）小野田正利（新新新・学校保護者関係研究会）